

第2回次期京都市観光振興推進計画策定委員会 摘録

1 日時

平成21年11月11日（水）13時～15時30分

2 場所

平安神宮会館「栖鳳殿」

3 出席者

（ 委 員 ） 橋爪委員長代行，田中副委員長，八木副委員長，藤井副委員長，荒木委員，上田委員，太田委員，菊地委員，工藤委員，小林委員，小桃委員，後藤委員，ステファン・バルベリ委員，三木委員，十倉委員，富本委員，西村委員，東田委員，平井委員，福永委員，星野委員，湊委員，南委員，武藤委員
(33名中24名出席)

（京都観光振興会議）永井京都市産業局観光政策監
有馬京都府商工労働観光部観光政策監
北富京都商工会議所理事産業振興部長
湊（社）京都市観光協会専務理事
井上（社）京都府観光連盟専務理事

（京都市）京都市産業観光局 森井産業観光局長

（事務局）京都市産業観光局 北村観光企画課長，柴田観光振興課長，
柿沼観光振興課担当課長

4 内容

3部会における検討状況及び「未来・京都観光振興計画2010⁺5（中間案）」並びに「京都市MICE戦略（中間案）」について，事務局から資料に基づき説明を行った後，意見交換が行われた。

（2）概要

「未来・京都観光振興計画2010⁺5（中間案）」について

○ 総論

- ・ 歴史・文化は当然として，「自然と人とのかかわり」が京都のアイデンティティであり，これを表現してほしい。
- ・ 京都ブランドをどのように守るのか。そのために，仕組みや人材，財源などが大切。
- ・ 現状は忙しいが儲からない。もっと京都観光を支えている事業者の目線を入れてほしい。
- ・ 観光客が帰ってからも産業につなげる方策を。
- ・ 「世界が共感する」観光都市は一昔前のコピーに聞こえる。

○ 指標

- ・ 量を求める経済界も考慮して，質を表す単価を指標に掲げるべき。
- ・ あまり指標に縛られず，ゆとりを持ってよいのではないか。
- ・ 指標をしっかりとつことには賛成。

○ 具体的施策

(暮らすように旅するプロジェクト)

- ・ 京都市で休暇の弾力化、休暇の取得促進を進めてほしい。
- ・ ホテルの誘致・建設では、京都の景観にふさわしい国際コンペをしてはどうか。
- ・ 正規の宿泊施設でないものが増え、事故でも起こると京都のイメージダウンになる。許可関係をきちんとすべき。
- ・ 宇多野ユースホステルの活用、エコの観点、質の高いバックパッカー向けの情報の充実を掲げるべき。

(歩いてこそ京都プロジェクト)

- ・ トレイルの質がまだまだ低い。外国人を含めた案内ボランティア制度を。

(市民の京都再発見プロジェクト)

- ・ 市民に主体者意識はない。日本史・古典を知らなくておもてなしはできない。

(観光客の不満をゼロにプロジェクト)

- ・ 英語の表示、手話など障害者・弱者への対応が必要。

(新たな京都ファン獲得プロジェクト)

- ・ 花背山の家だけでなく、山村都市交流の森や大原、越畑、中川なども盛り込むべき。

(京都の魅力うまく伝えるプロジェクト)

- ・ 各種キャンペーンでは量から質への転換に重点を置いてほしい。
- ・ 大阪、大津、比叡山など他都市・エリアとの連携を盛り込むべき。

(ターゲット別戦略)

- ・ 旅館で研究して修学旅行生に京都の食文化を発信してほしい。
- ・ ラグジュアリー層は顕在化しておらず、高齢者が高級車での観光を必要としている。
- ・ 外国人観光客（特にアジアからの観光客）が増えることで市民との摩擦が生じるため対策を講じる必要がある。
- ・ 外客誘致では、エージェント向けの活動でなく、直接日本に来る観光客（住民）にPRすべき。

(その他)

- ・ オンシーズンに観光客はこれ以上いない。オフシーズン対策を盛り込むべき。ゴールデンウィーク明け、祇園祭、盆など魅力あるオフシーズンがある。
- ・ 鉄道輸送には限界があり、オフシーズン対策は大切。
- ・ 七夕事業などオフシーズンのイベントを充実すべき。
- ・ シティマラソンの開催は、冬に実施すれば閑散期対策になるだけでなく、新たな京都ファンと宿泊客の獲得にもつながる。
- ・ 閑散期の体力消耗からサービス低下が起こるため、閑散期対策は必要。
- ・ オフシーズン対策をすると、オンシーズンと宿泊代が同じになることが懸念される。
- ・ 東山、嵐山以外に観光客を分散化する必要がある。

○ 計画の実現

- ・ どこから手をつけるのか。
- ・ 取組は誰が推進するのか、取組主体みんなが共有できる器づくりが必要。
- ・ 「心で“みる”京都」プロジェクトは誰がどうやって進めるのかははっきりさせるべきである。
- ・ これからは市民と事業者が主体で、行政が後押しする役割をすべきではないか。
- ・ 市民はどのように手伝えばいいのか、どのような人材がどこにいるのか、人材の活用システムや人材バンクのような仕組みを構築してほしい。
- ・ 「みんな」での取組に際しては、危機感を共有することが大切。イベントでなく危機感がエネルギーになる。
- ・ 危機感の共有は大事だと思う。
- ・ 進捗状況などを市民に「見える化」してインナー活性化をすべき。
- ・ 財源を具体的に書くべき。

「京都市MICE戦略（中間案）」について

- ・ 疎水の世界遺産指定が難しいことを最近知ったが、MICE戦略における岡崎の地域開発は進めてほしい。
- ・ MICE戦略では、岡崎の京都会館のリニューアルを書き込むべき。
- ・ 岡崎では、京都会館とみやこめっせの一体化を図るべき。
- ・ 国立京都国際会館の拡充が絶対必要であり、世界標準の5000人を超える規模を要求してほしい。
- ・ 生産性を考えればオフシーズン（12月～2月）対策でMICEをよぶべき。
- ・ MICEは観光シーズンには困る。
- ・ 京都に大規模施設が必要であることは理解するが、当面の方策としては、大阪、滋賀と連携すればよいのでは。